

# 地域おこし協力隊の そっちゃん! 高千穂

## 残り一年頑張ります! 地域おこし協力隊活動

令和元年9月に着任しはや4年。この間の活動を振り返ります。

### 4年間の累計実績

#### 業務内容：移住関連業務

##### 1. 移住相談

移住相談（電話・email・面会）584件  
住宅案内 183件  
インターネット等での情報発信 SNS(Facebook) 投稿 479報  
移住相談会 2回（大阪・東京）  
移住体験住宅対応 13件

##### 2. 移住交流に関する業務

移住者交流会 8回

##### 3. 空き家調査や管理に関する業務

空き家確保 45件  
空き家片付け 25件

私の担当は、「移住関連業務」。

町が委託している“NPO法人一滴の会”に出向し、主に以下の3つの業務に携わっています。

### 1) 移住相談

高千穂町への移住希望は年々増加し、4年間の累計相談件数は、584件（年平均146件）。そのうち町内に住宅を見に来た（内覧）数は、183件（年平均46件）、移住を決められた方は40世帯・90名を超えます。

この間、移住希望の方へ提供する情報の整備と質・量の向上に努め、個別の要望（例えば、土日の内覧希望等）にも可能な限り応えてきました。

### 2) 移住交流に関する業務

年2回のペースで開催し、毎回、どんな交流会を開催しようかと頭を悩ませます。

今月開催した交流会は、一滴の会がNPO法人化して10年を超えたこと、一滴の会が関わった移住支援数が100組を超えたことをお祝いする記念イベントにしました。

この交流会は移住者に限らず高千穂が好きの方ならどなたでも参加できるイベントです。次回以降のご参加をお待ちしています。

### 3) 空き家の調査や管理に関する業務

町と連携した啓発活動で年間20件程度の空き家相談があります。

現地調査を行い、年間10軒程度、空き家バンクに掲載となります。相続未対応のケースもあり、司法書士等との連携も必要になり、相談を受けて掲載までに3カ月から半年以上の時間を要することもあります。また、空き家バンクに掲載されている空き家は、月1回の窓開放や内覧に支障がない程度の家周辺の草刈りも無償で行うなどの管理を行っています（最大2年間）。

空き家の多くは水回り（凍結によるひび割れ等）をはじめいろいろな問題を抱えています。購入する方もリフォーム費用がかさむため、おのずと家の評価額は下がってしまいます。普段から空き家の管理をしっかり行うとともに、賃貸で誰かに住んでもらうことで管理の手間を省くことも手段として考えてはいかがでしょうか。そうすれば、高千穂町への移住希望の方に一軒でも多く住宅が提供できることになります。

### おわりに

残り1年、後任者にうまく引き継げるよう資料整備を行うとともに、3つの業務に日々まい進してまいります。引き続きのご支援をお願いいたします。



**佐藤 高功 Sato Takatori**

高千穂町岩戸出身。  
令和元年9月に着任。  
ミッションは「移住相談、移住交流に関する業務、空き家の調査や管理に関する業務」。  
NPO法人「一滴の会」に出向。  
趣味は旅行と映画鑑賞。

——— NPO法人一滴の会の連絡先 ———

☎ 0982-83-0111 ✉ office@itteki.org

## 農業者の皆さまへ

# 被覆資材等価格高騰対策事業

### ◆補助内容

不安定な国際情勢等の影響により高騰した農業資材に対し、その価格上昇相当額の1/2以内の助成を行います。

### ◆申請方法

- ①JA 生産部会の集会時に提出（10～12月）
- ②JA 各支所の生産資材窓口へ提出（10～1月）

### ◆補助対象資材

- ①施設園芸
  - ・ハウスの外張、内張、資材（材質：ビニルまたはPO）  
※不織布や防虫ネットは対象外
- ②露地園芸
  - ・マルチやトンネル資材
- ③飼料作物
  - ・サイレージ用のラップ

対象農地につき申請は1回限り、作付面積に合った資材の購入量であることが条件となります。また、JAで注文・購入し、今年度使用する資材が対象です。

※購入期間は、令和5年4月～令和6年2月  
申請者ごとに、栽培面積と購入実績に応じ、3月に助成金をJA口座へ振込みます。



詳しくは JA 広報誌かるめご 10月号をご覧ください。

## ～第59回全国糖尿病週間（2023年）に寄せて～

県立宮崎病院 糖尿病・内分泌内科 医長 土持 若葉 先生

国際糖尿病学会の報告によると、2021年の世界の糖尿病患者数は5億3,700万人で、世界の成人の10人に1人が糖尿病有病者であることを示しています。更に2045年までに7億8,300万人まで増加すると予想されています。これは自分自身や家族・パートナー、友人など、周囲の誰かに糖尿病と診断されている方がいるかもしれないことを表しています。

毎年11月14日は、世界糖尿病デーです。世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために、インスリンを発見したカナダの医学者・フレデリック・バンティング博士の誕生日にちなんで制定されました。世界糖尿病デーには、様々な糖尿病啓蒙・啓発イベントが開催されています。

糖尿病は網膜症・腎症・神経障害（糖尿病3大合併症）の他、心臓病、脳卒中といった生命の危険を伴う合併症を引き起こすことが良く知られています。糖尿病をマネジメントすることは、合併症や感染症のリスクを減らし、糖尿病患者さんが健康な人と変わらぬ日常生活を送れることにつながります。

糖尿病は完治する病ではなく、マネジメントしながらうまく付き合っていくべき病です。糖尿病とうまく付き合うために重要なことは、「糖尿病のマネジメントを孤独な闘いにしない」ことです。糖尿病患者さんを支える家族や周囲の人々の、糖尿病への正しい理解が大切です。当人だけでなく周囲の方にとっても長期戦であるからこそ、糖尿病患者さんと周囲の人々が正しい理解と知識を共有しておく必要があります。

全国糖尿病週間にあたって、患者さんには糖尿病についての知識を深めてほしいですし、糖尿病でない皆さんにも糖尿病を正しく理解し、患者さんを支えてほしいと思います。

この機会に糖尿病についてみんなで考えてみましょう。



**糖尿病をもつ人は、あなたと同じ社会で活躍できる人です。**

糖尿病について何も知らない人々からの誤解や偏見のために、医学や就職、結婚、マイホームの夢を諦められる人がいます。病気のことや、無理をしながら生活している人がいます。糖尿病は薬でコントロールされています。正しく糖尿病が管理されていると、ふつうの人と変わらない一生を送ることが出来る病気なのです。「私は糖尿病とは無関係だから、知らなくていいんじゃない?」という、さ、あなた、そして社会からの正しい理解が必要です。

**糖尿病には、あなたの正しい理解が必要です。**

公益社団法人 日本糖尿病協会 一般社団法人 日本糖尿病学会  
糖尿病とともに生きる人の可能性や未来を備え、踏み取らない社会づくりに私たちは取り組みます。

糖尿病協会 アドバイザー